

2022年3月期 決算説明会資料

2022.5.25

日本電子株式会社

世界の科学技術を支えるニッチトップ企業へ

▶ YOKOGUSHI ◀

経営理念

日本電子は「創造と開発」を基本とし常に世界最高の技術に挑戦し製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献します

▶ YOKOGUSHI ◀

ビジョン

「70年目の転進」

創業以来培ってきた独自の技術と人脈を基に事業拡大を加速し更なる高収益化を実現します

中期経営計画

「Evolving Growth Plan」

研究開発力、ものづくり力、サービス力のUPにより顧客満足度の向上を図ります

▶ YOKOGUSHI ◀

共創によるイノベーションを推進

成長ビジョン「70年目の転進」の考え方は不変

- 事業規模の拡大と高収益化を実現する



2021年度実績	過去最高の売上・利益を計上 中期経営計画 (Triangle Plan 2022) の数値目標達成
半導体事業が好調	電子ビーム描画装置の売上が拡大傾向継続
2022年度事業見通し	売上高1,525億円、営業利益195億円、経常利益188億円、 当期純利益137億円
新中期経営計画 Evolving Growth Plan 概要	成長ビジョン「70年目の転進」の施策を更に推進し、 事業規模の拡大と高収益化を実現する
新中期経営計画 Evolving Growth Plan 取り組み	<ol style="list-style-type: none">1. 参入障壁の構築と収益力向上2. 成長マーケット (半導体、創薬、電池等) での事業拡大

INDEX

1. 2021年度実績および2022年度予想

2. 新中期経営計画「Evolving Growth Plan」の概要
 - 2-1. 理科学・計測機器事業
 - 2-2. 産業機器事業
 - 2-3. 医用機器事業

3. まとめ

1. 2021年度実績および2022年度予想

2021年度決算実績 (P/L)

■ 連結売上高 1,384 億円 / 営業利益 141 億円 / 経常利益 163 億円 / 当期純利益 123 億円

連結数値 (P/L)

	20年度 通期実績 ①	21年度 通期実績 ②	(単位：億円) 前年比 ②-①
1 売上高	1,104	1,384	280
2 売上原価	675	830	155
3 (原価率)	61.2(%)	60.0(%)	△1.2(%)
4 売上総利益	429	554	125
5 販管費	296	327	31
6 研究開発費	81	85	5
7 販売費及び一般管理費合計	377	412	36
8 営業利益	52	141	89
9 営業外収益	16	24	8
10 営業外費用	3	3	0
11 経常利益	66	163	98
12 特別利益	1	4	3
13 特別損失	11	1	△10
14 税前当期純利益	56	167	110
15 法人税等	19	44	25
16 当期純利益	37	123	85
為替レート (1\$=)	¥ 106	¥ 113	
為替レート (1€=)	¥ 124	¥ 131	

営業利益増減要因分析 (対 前年比)

(単位：億円)	
(A) プラス要因	125
1. 売上数量増	89
2. 為替差 (円安)	31
3. 原価改善等	5
(B) マイナス要因	△36
1. 販売管理費増	△31
2. 研究開発費増	△5
(A)+(B)	89

Triangle Plan 2022 数値目標
 連結売上高 1,340 億円、連結経常利益
 100 億円、ROE10% 以上全て達成

2022年度予想 (P/L)

■ 連結売上高 1,525 億円 / 営業利益 195 億円 / 経常利益 188 億円 / 当期純利益 137 億円

連結数値 (P/L)

(単位：億円)

	20年度 通期実績	21年度 通期実績 ①	22年度 通期予想 ②	前年比 ②-①
1 売上高	1,104	1,384	1,525	141
2 売上原価	675	830	877	47
3 (原価率)	61.2(%)	60.0(%)	57.5(%)	△2.5(%)
4 売上総利益	429	554	648	95
5 販管費	296	327	345	18
6 研究開発費	81	85	108	23
7 販売費及び一般管理費合計	377	412	453	41
8 営業利益	52	141	195	54
9 営業外収益	16	24	5	△19
10 営業外費用	3	3	12	9
11 経常利益	66	163	188	25
12 特別利益	1	4	0	△4
13 特別損失	11	1	2	1
14 税前当期純利益	56	167	186	19
15 法人税等	19	44	49	5
16 当期純利益	37	123	137	14
為替レート (1\$=)	¥ 106	¥ 113	¥ 115	
為替レート (1€=)	¥ 124	¥ 131	¥ 130	

営業利益増減要因分析 (対 前年比)

(単位：億円)

(A) プラス要因	
1. 売上数量増	51
2. 原価改善等	34
3. 為替差 (円安)	10

(B) マイナス要因	
1. 研究開発費増	△23
2. 販売管理費増	△18

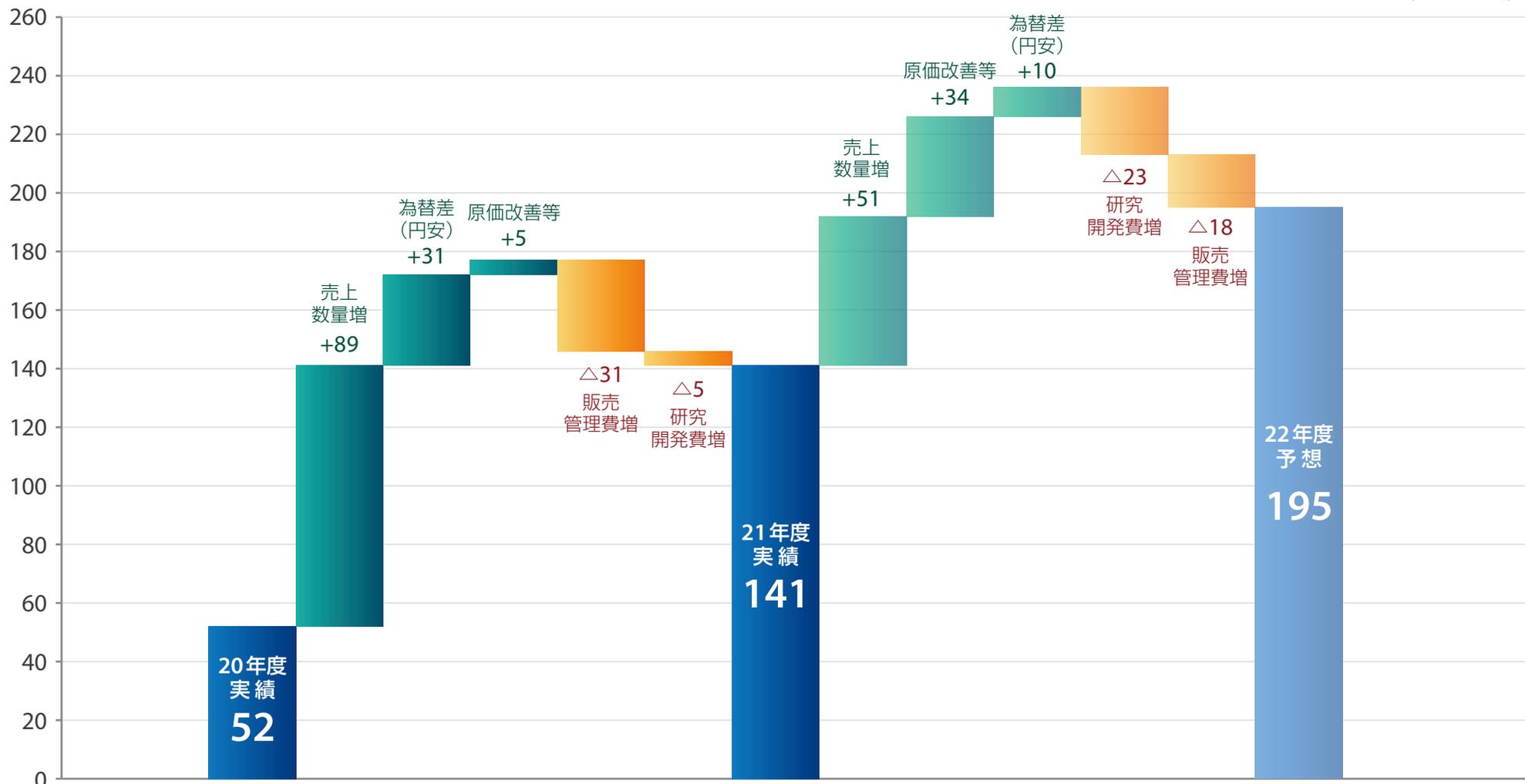
(A)+(B)	54
---------	----



利益の増減要因

営業利益増減分析

(単位：億円)



事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移（通期）

（単位：億円）

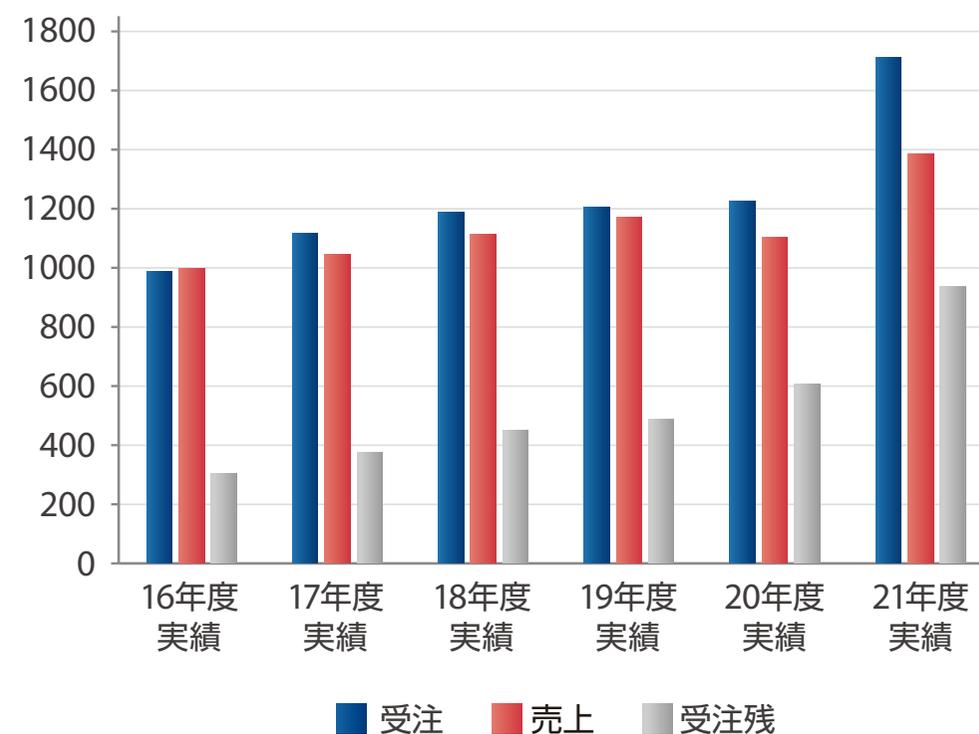
		20年度 通期実績	21年度 通期実績	22年度 通期予想
全社	売上高	1,104	1,384	1,525
	営業利益	52	141	195
	経常利益	66	163	188
	当期純利益	37	123	137
理科学・計測機器事業	売上高	706	851	902
	営業利益	12	48	56
産業機器事業	売上高	240	340	442
	営業利益	73	131	180
医用機器事業	売上高	159	193	181
	営業利益	9	11	12
全社	費用	42	49	53
為替レート(1\$=)		¥ 106	¥ 113	¥ 115
為替レート(1€=)		¥ 124	¥ 131	¥ 130

主要勘定の推移

(単位：億円)

(連結)	20年度 通期実績	21年度 通期実績	22年度 通期予想
1 在庫	573	591	573
2 有利子負債	327	166	115
3 総資産	1,464	1,896	1,800
4 純資産(自己資本比率)	510 (34.8%)	859 (45.3%)	965 (53.6%)
5 配当金(円)	24円	50円	60円
6 設備投資	76	69	70
7 減価償却費	36	41	46
8 連結受注高	1,226	1,712	1,750
9 連結期末受注残	608	936	1,161
10 海外売上比率	63.5%	63.4%	65.0%

連結受注・売上・受注残の推移



事業環境

- 引き続き受注は好調、部材逼迫の影響を最小化すべく対応中

		概況	
理科学・計測機器事業	大学・官庁	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ FY22も補正予算による引き合いあり（国内） ■ 欧米での引き合いが復調 ■ 中国市場は引き続き活発だがコロナ影響（上海ロックダウン） ■ 各国で研究基盤強化の動き
	民需（半導体）	◎	<ul style="list-style-type: none"> ■ 極東・中国地域を中心にTEMの引き合いが堅調 ■ 微細化・複雑化に伴い電子顕微鏡（TEM, SEM, EPMA）のニーズが拡大傾向
	民需（他産業）	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体的に設備投資が活発 ■ 次世代電池向けの研究開発投資が増加傾向 ■ ウクライナ侵攻の影響は現在のところ発現していない
産業機器事業	描画装置市場	◎	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5Gの普及、EUV化の進展とともにマルチビームの需要が拡大 ■ スポットビーム描画装置も生産向けの市場（DFBレーザー向け等）が拡大
	電子銃市場	◎	<ul style="list-style-type: none"> ■ 偏向銃の引き合い大幅増加
医用機器事業	国内市場	△	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生化学分析装置の需要が復調傾向
	海外市場	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ シーメンス向けの受注・売上が復活 ■ 中国向けの受注・売上が拡大

2. 新中期経営計画「Evolving Growth Plan」の概要

基本的な考え方

- 前中期経営計画「Triangle Plan 2022」の基本的なビジョンである「70年目の転進」をさらに進めていくことで事業規模の拡大を加速し高収益化を実現する

1. 成長ビジョン「70年目の転進」の考え方は不変

創業以来培ってきた独自の技術と人脈を基に事業拡大を加速し更なる高収益化を実現する

2. YOKOGUSHI戦略の強化・発展

YOKOGUSHI戦略を従来の製品展開のみならず事業展開、データ活用へ発展させ、顧客により高い付加価値を提供していく

3. 高収益化に向けた取り組み

参入障壁の構築、収益力向上に加え事業支援の強化に全社で取り組む

4. 顧客への価値 / 社員・人材 / 売上・利益の3つのGrowthの実現

事業規模の拡大に向け、バランスの良い成長を実現する

5. SDGsへの取り組み

事業活動とESG活動の二つの点からマテリアリティ(重要な社会課題)に取り組んでいく



以上により、2024年度に売上1,700億円、営業利益240億円を達成する

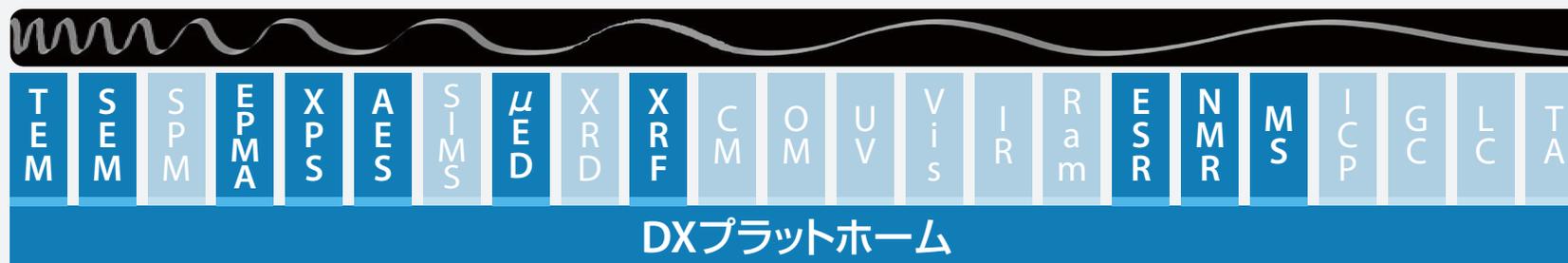
成長ビジョン「70年目の転進」の考え方は不変

- 事業規模の拡大と高収益化を実現する



- 高収益化に向け、更に強化、発展させる

▶YOKOGUSHI◀



Solutions



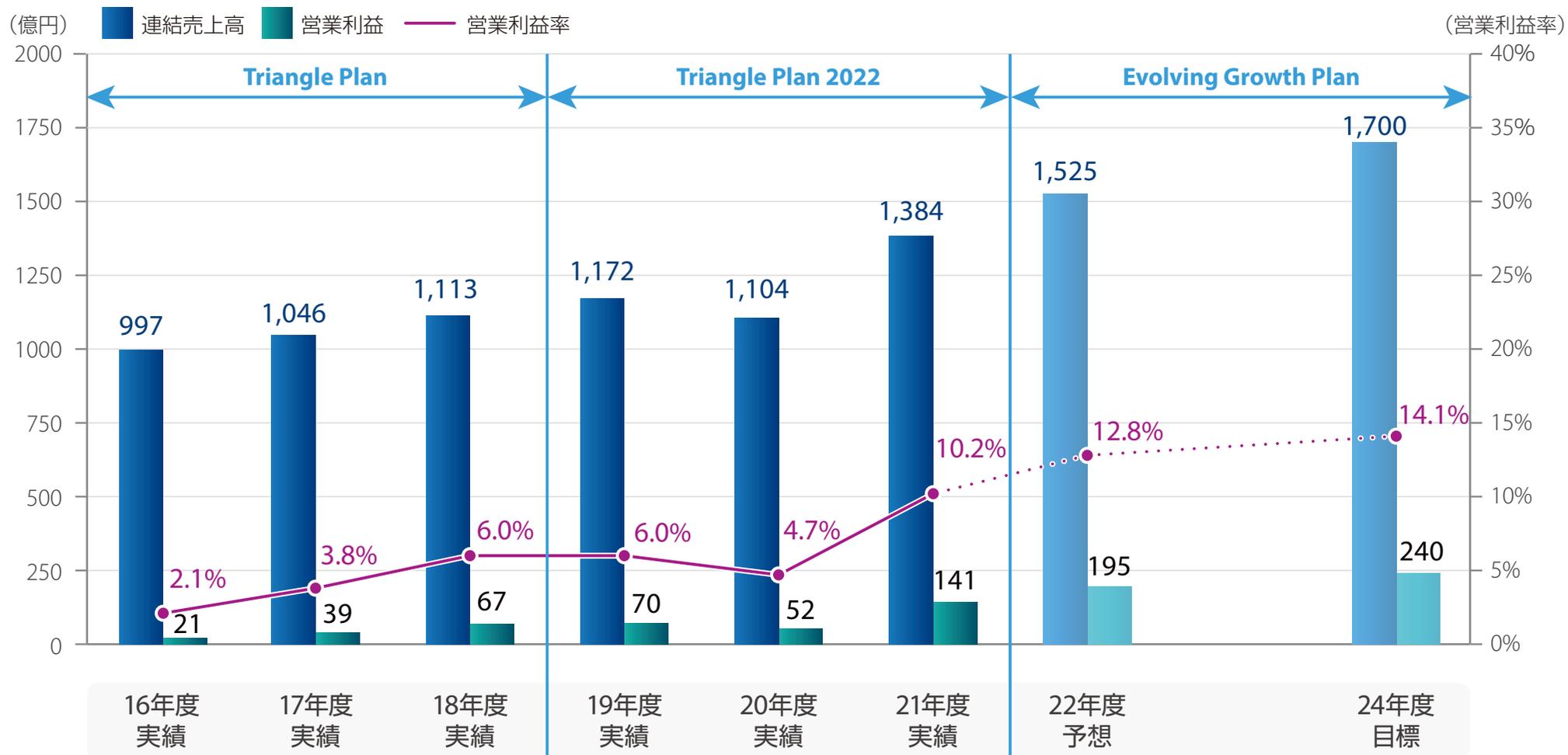
連結数値目標

- 2024年度に売上高1,700億円、営業利益240億円、営業利益率14.1%を目標とする
- 資本に関する目標としてROE 継続的に10%以上を目指す

		2021年度 実績	2022年度 予想	2024年度 目標
PL項目	売上高	1,384億円	1,525億円	1,700億円
	営業利益 (営業利益率)	141億円 (10.2%)	195億円 (12.8%)	240億円 (14.1%)
	経常利益 (経常利益率)	163億円 (11.8%)	188億円 (12.3%)	240億円 (14.1%)
	親会社株主に帰属する 当期純利益	123億円	137億円	175億円
	為替の前提	1\$=113円	1\$=115円	1\$=115円

数値計画・実績

連結売上高・営業利益推移



為替レート(1\$=円)

¥ 109 ¥ 111 ¥ 111 ¥ 109 ¥ 106 ¥ 113 ¥ 115 ¥ 115

セグメント別数値目標

(単位：億円)

			2021年度 実績	2022年度 予想	2024年度 目標
理科学計測機器	PL項目	売上高	851	902	992
		営業利益* (営業利益率)	48 (5.7%)	56 (6.2%)	91 (9.2%)
産業機器	PL項目	売上高	340	442	515
		営業利益* (営業利益率)	131 (38.5%)	180 (40.7%)	213 (41.3%)
医用機器	PL項目	売上高	193	181	193
		営業利益* (営業利益率)	11 (5.7%)	12 (6.6%)	18 (9.5%)

※全社費用配分前

全社費用	49	53	57
------	----	----	----

※2024年度に別途戦略費25億円を見込む

理科学・計測機器事業

- 成長マーケット（半導体、創薬、電池等）に向け、YOKOGUSHI戦略をベースに高い競争力を持つソリューションを提供する
- 営業とサービス提供を一体的に運用し、顧客への付加価値を高める

産業機器事業

- 半導体の成長とともに拡大を続けるマスク描画装置及びスポットビーム描画装置について、市場の要求に確実に応えることで事業拡大につなげる
- 協業先であるIMSと連携し、競争力のあるソリューションを継続的に提供していく

医用機器事業

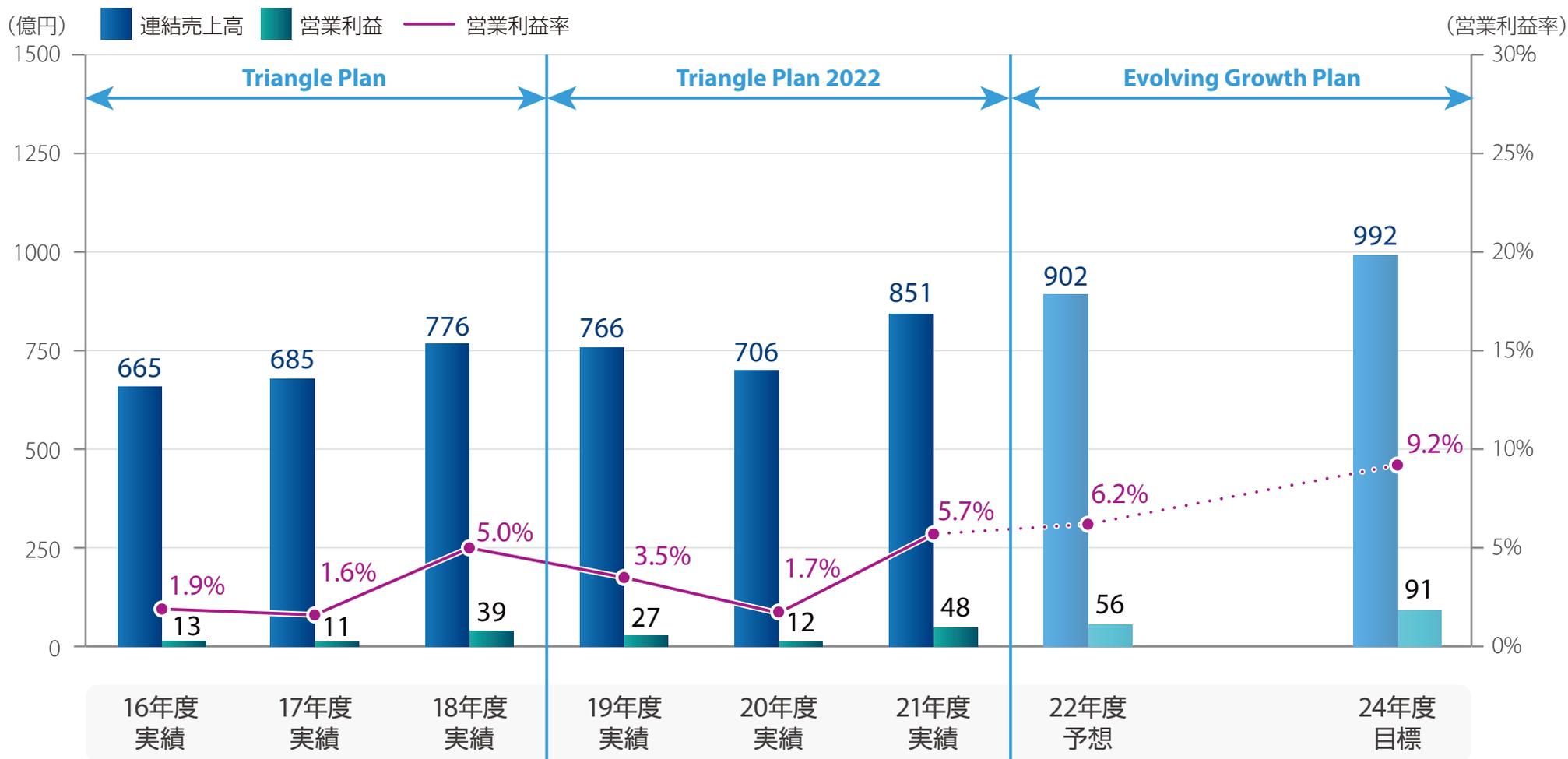
- 引き続き海外市場展開に注力することで事業を拡大していく
- IoTシステム展開や装置の原価削減活動を通じ、原価率を改善していく

2-1. 理科学・計測機器事業



理科学計測機器数値目標

連結売上高・営業利益推移



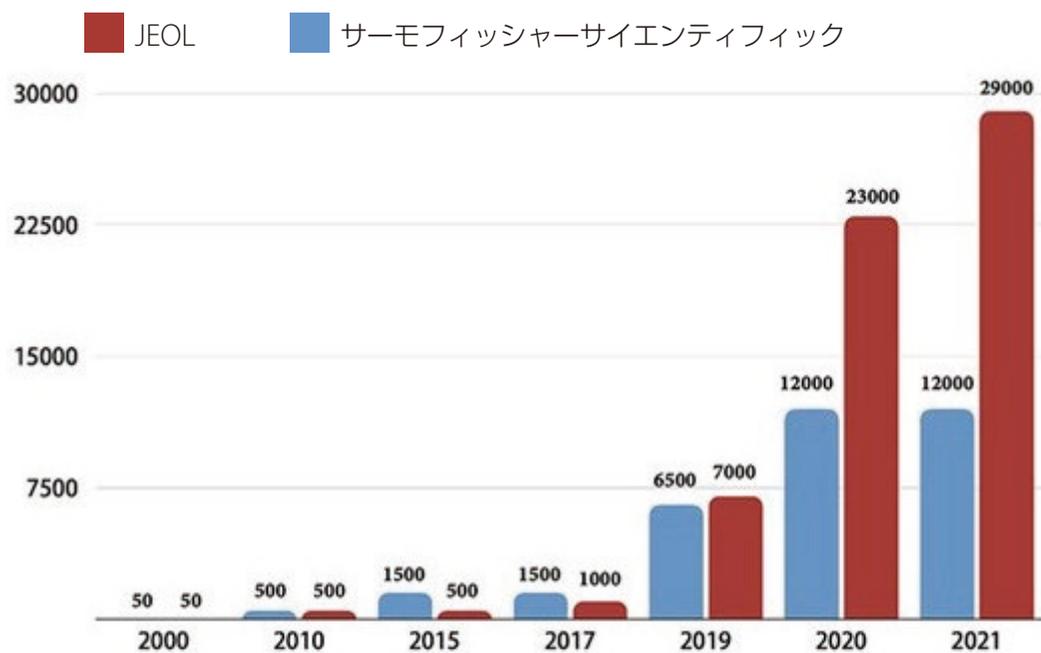
為替レート(1\$=円)

¥ 109 ¥ 111 ¥ 111 ¥ 109 ¥ 106 ¥ 113 ¥ 115 ¥ 115

CryoARM™ スループットが大きく向上

- 「Microscopy Volume 71, Issue Supplement (2022)」に大阪大学／難波啓一特任教授の論文「Recent progress and future perspective of electron cryomicroscopy for structural life sciences」が掲載され、CryoARMのスループットが格段に向上したことが紹介された

クライオ電顕像撮影速度の高速化の歴史



Year	CryoTEM	Detector	Data collection method
2000	JEM3000SFF	Photographic film	Manual
2010	JEM3200FSC	TVIPS F415mp	Manual
2017	CRYO ARM 200 (prototype)	GATAN K2	JADAS
2019	CRYO ARM 300	GATAN K3	SeraiEM
2020	CRYO ARM 300	GATAN K3	SerialEM & PyJEM
2021	CRYO ARM 300 II	GATAN K3	SerialEM & PyJEM & Zero-fringe

出所:日本電子news Vol.54 No.1, 2022

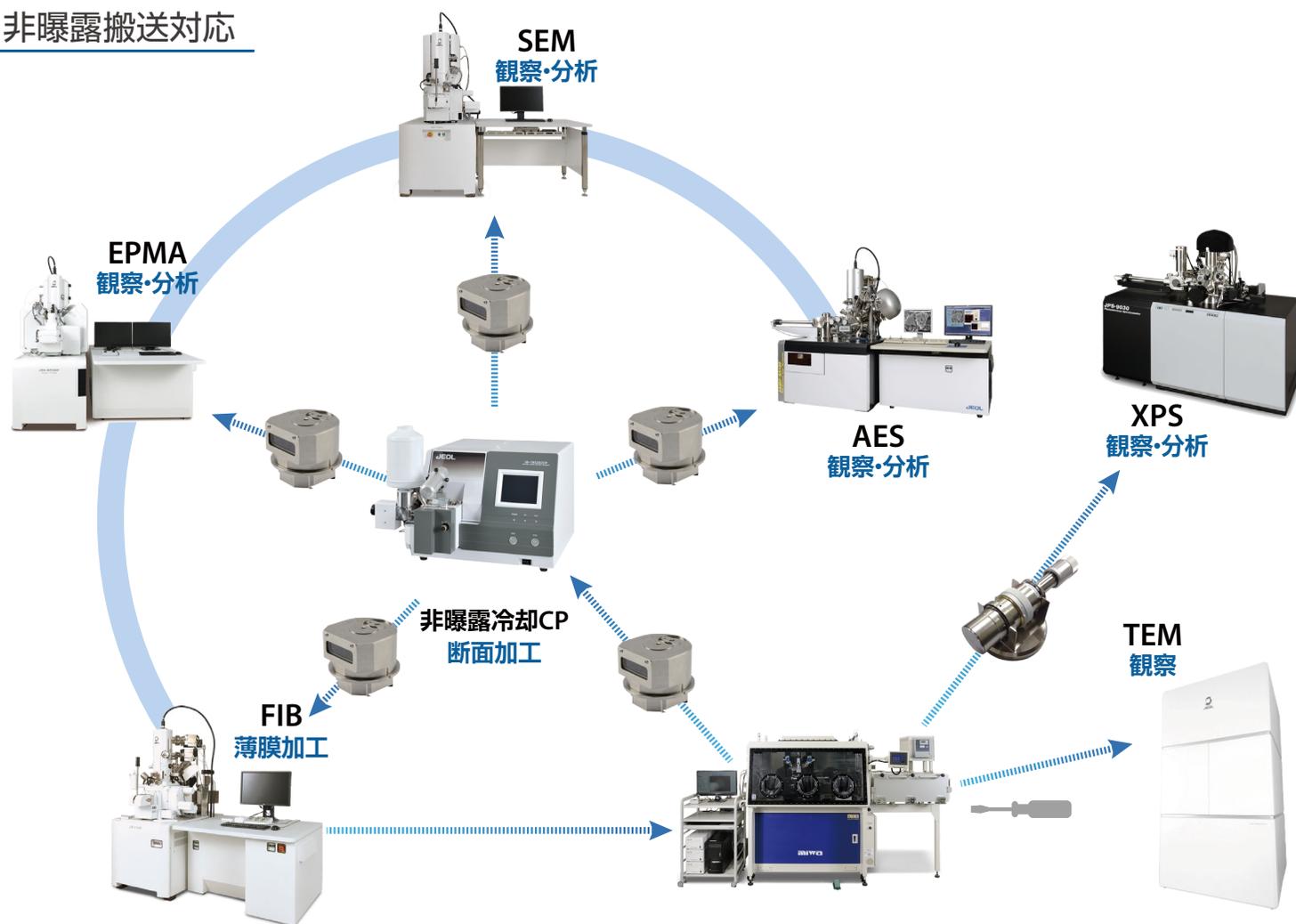
https://www.jeol.co.jp/download_jeolnews.html#j_new



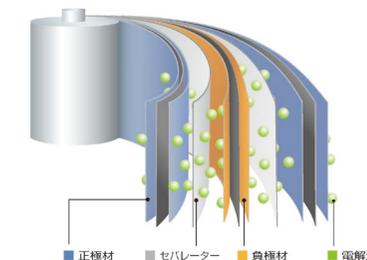
次世代電池向け ▶YOKOGUSHI◀ 解析ソリューションの提供

- 電子顕微鏡における観察・分析では電池を解体する必要があるが、多くの材料情報が得られるのが特長
- 硫化物系固体電解質を用いた電池はリチウムや硫黄が含有するため、材料変質を抑えるために非曝露下で取り扱う必要があるが、当社の製品では観察・分析装置と加工装置も含めて非曝露で搬送できるように対応している

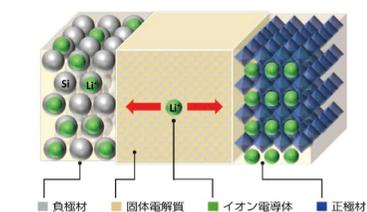
非曝露搬送対応



リチウムイオン電池 (LIB) の構成



全固体電池の構成

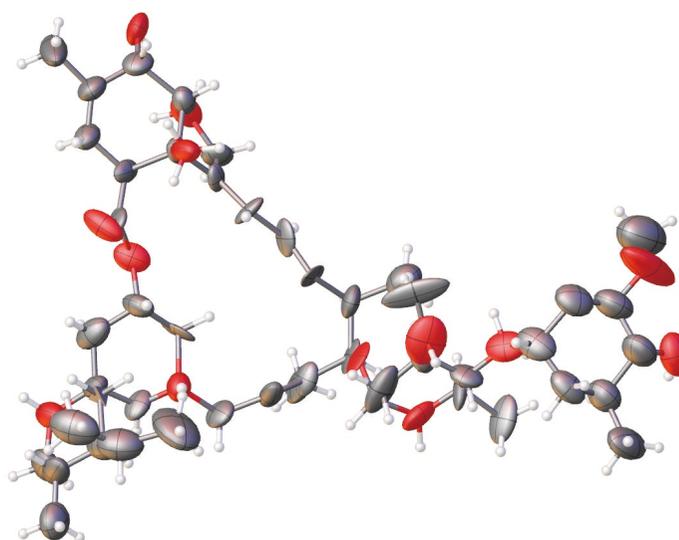


Synergy-ED (電子線回折構造解析装置) 出荷開始

- 北里大学大村智記念研究所に第一号機が納入され、引き合いも活況である



イベルメクチンをSynergy-EDを用いて構造解析に成功



「原子の磁場」新型電子顕微鏡で初観察

- 磁力の起源といえる原子周囲に発生している磁場の直接観察は極めて困難だった
- 新開発の原子分解能磁場フリー電子顕微鏡で、原子磁場の直接観察に成功した
- 今回の計測技術は、物質が示す磁性の解明などの基礎研究や、磁石、鉄鋼、半導体デバイス、量子技術などの最先端マテリアル研究開発を強力に推進すると期待されている

科学技術振興機構 (JST) 計測分析技術・機器開発プログラムにおいて、東京大学と日本電子が共同開発

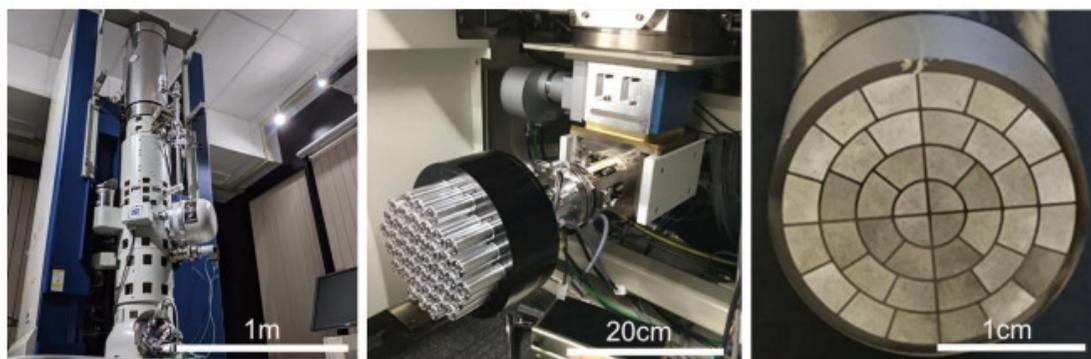


図2 新開発の超高感度・高速分割型検出器
 (左) 原子分解能磁場フリー電子顕微鏡の外観
 (中央) 電子顕微鏡下部に装着した新型検出器
 (右) 40個の検出領域に分割した検出面



図3 ヘマタイト ($\alpha\text{-Fe}_2\text{O}_3$) 結晶の外観と室温における原子構造およびFe原子の磁気モーメント配列 (矢印) の模式図

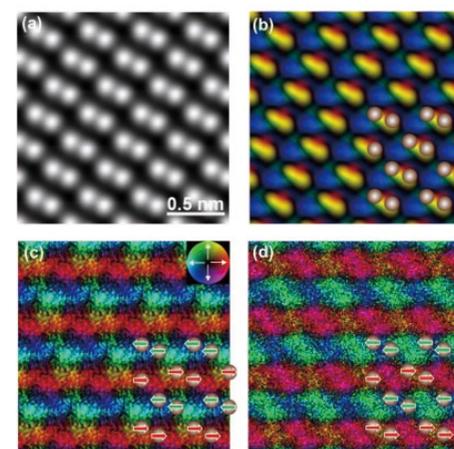


図4 ヘマタイト ($\alpha\text{-Fe}_2\text{O}_3$) 結晶の室温における原子構造像と磁場像

NJ Biopharmaceuticals LLCと800 MHz NMRを用いた革新的な創薬プラットフォームソリューションの共同開発

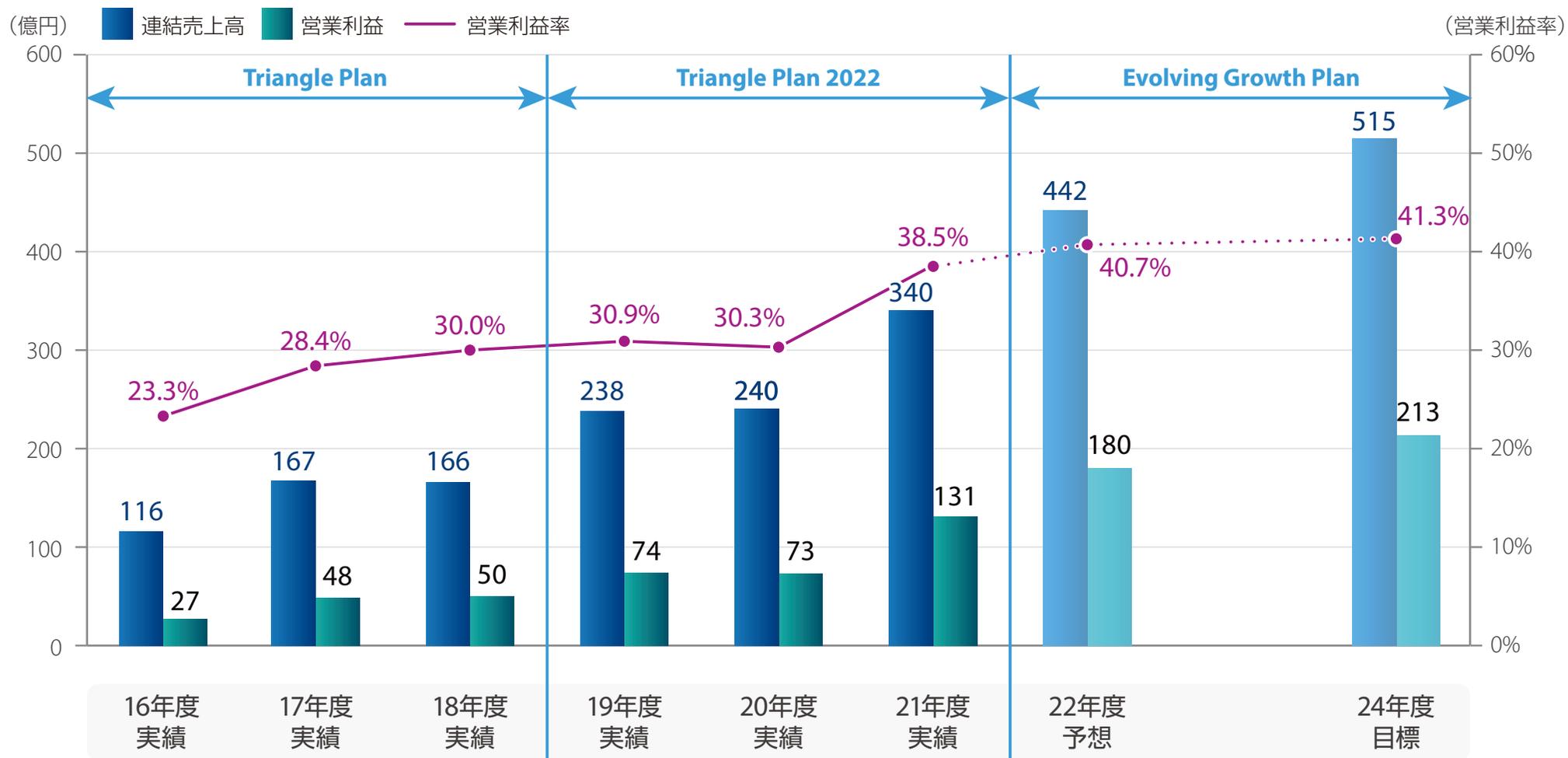
- NJ Biopharmaceuticals LLC (以下NJ Bio) から、当社極低温プローブ付き800MHz核磁気共鳴装置(NMR)を受注
- NJ Bioは、2021 Annual World ADC Awardsにおいて、Best Contract Research Provider Awardを受賞するなど、最新のモダリティに関わる研究サービスにおいて高い評価を獲得している米国の受託研究機関 (CRO) である
特にNMRによる構造情報を活用した標的タンパク質分解誘導剤 (TPD) の最適化のためのプラットフォームを開発する



2-2. 産業機器事業

産業機器数値目標

連結売上高・営業利益推移



為替レート(1\$=円)

¥ 109

¥ 111

¥ 111

¥ 109

¥ 106

¥ 113

¥ 115

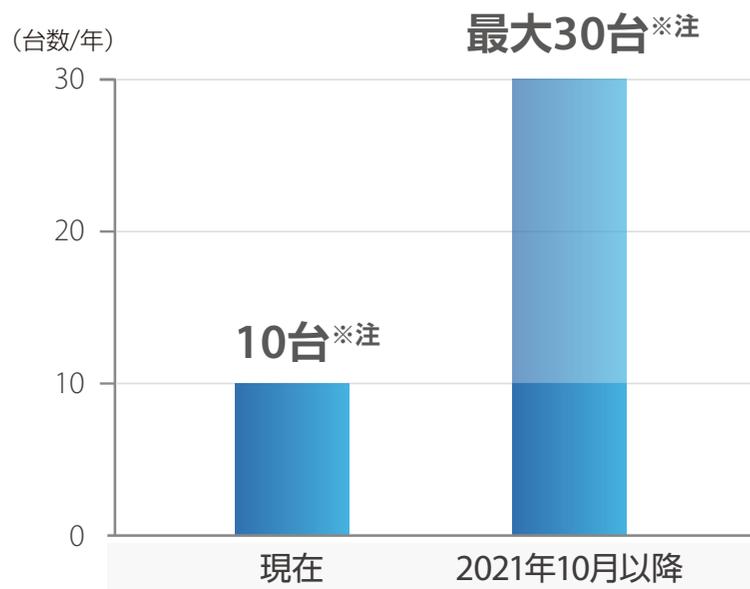
¥ 115

武蔵村山製作所生産のマルチビームマスク描画装置プラットフォーム出荷開始

- 武蔵村山製作所で生産されたマルチビームマスク描画装置プラットフォームを5月に初出荷



マルチビームマスク描画装置の最大生産能力



※注: マルチビームマスク描画装置換算の最大生産能力 (シングルビーム/スポットビーム描画装置の場合は生産可能台数は異なる)



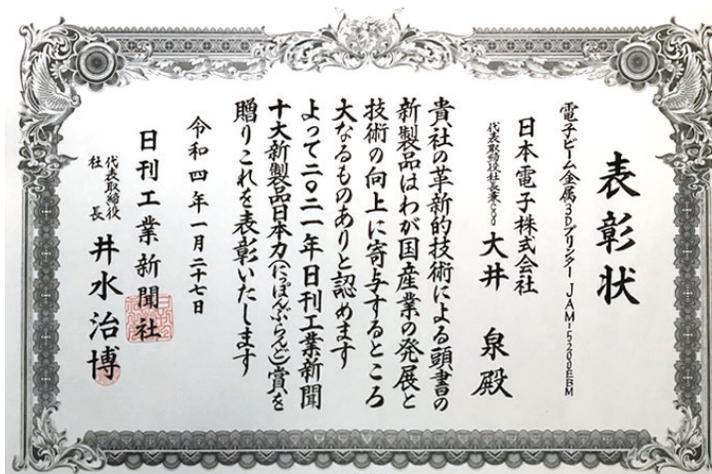
マルチビームマスク描画装置の拡大する需要へ対応



需要が堅調なシングルビームマスク描画装置及びスポットビーム描画装置の生産への対応

次世代型産業用3Dプリンター

- 多くの引き合いを得ており、国内の大学向けに導入が決定
- 電子ビーム金属3Dプリンターが第64回「十大新製品賞 日本力賞」を受賞



左：日刊工業新聞社 井水社長 (写真提供：日刊工業新聞社)

最近の造形結果



ヒートシンク (材料：純銅)



インペラー (材料：ニッケル基超合金718)

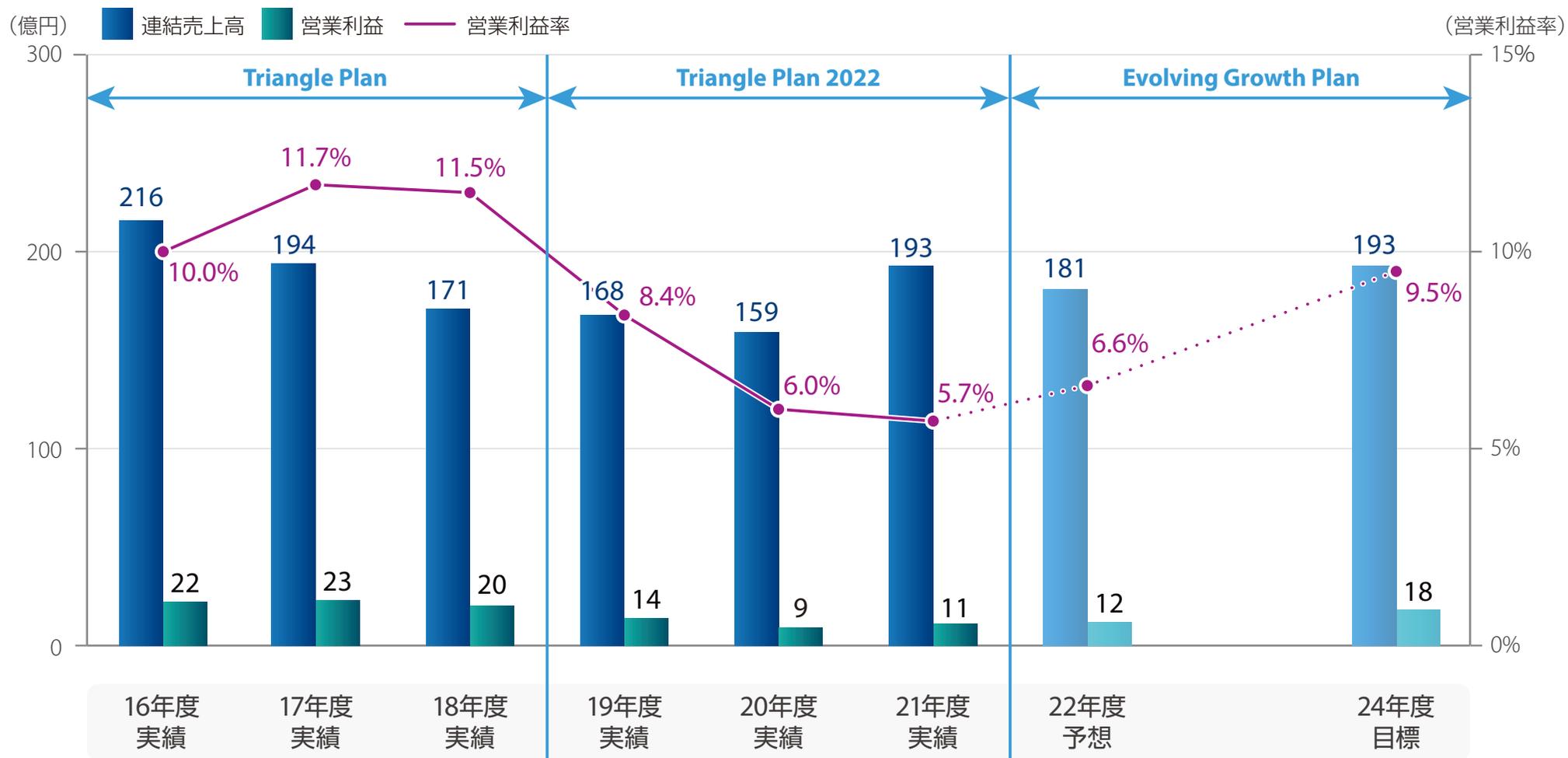


シュラウド付きインペラー
(材料：ニッケル基超合金718)

2-3. 医用機器事業

医用機器数値目標

連結売上高・営業利益推移



為替レート(1\$=円)

¥ 109

¥ 111

¥ 111

¥ 109

¥ 106

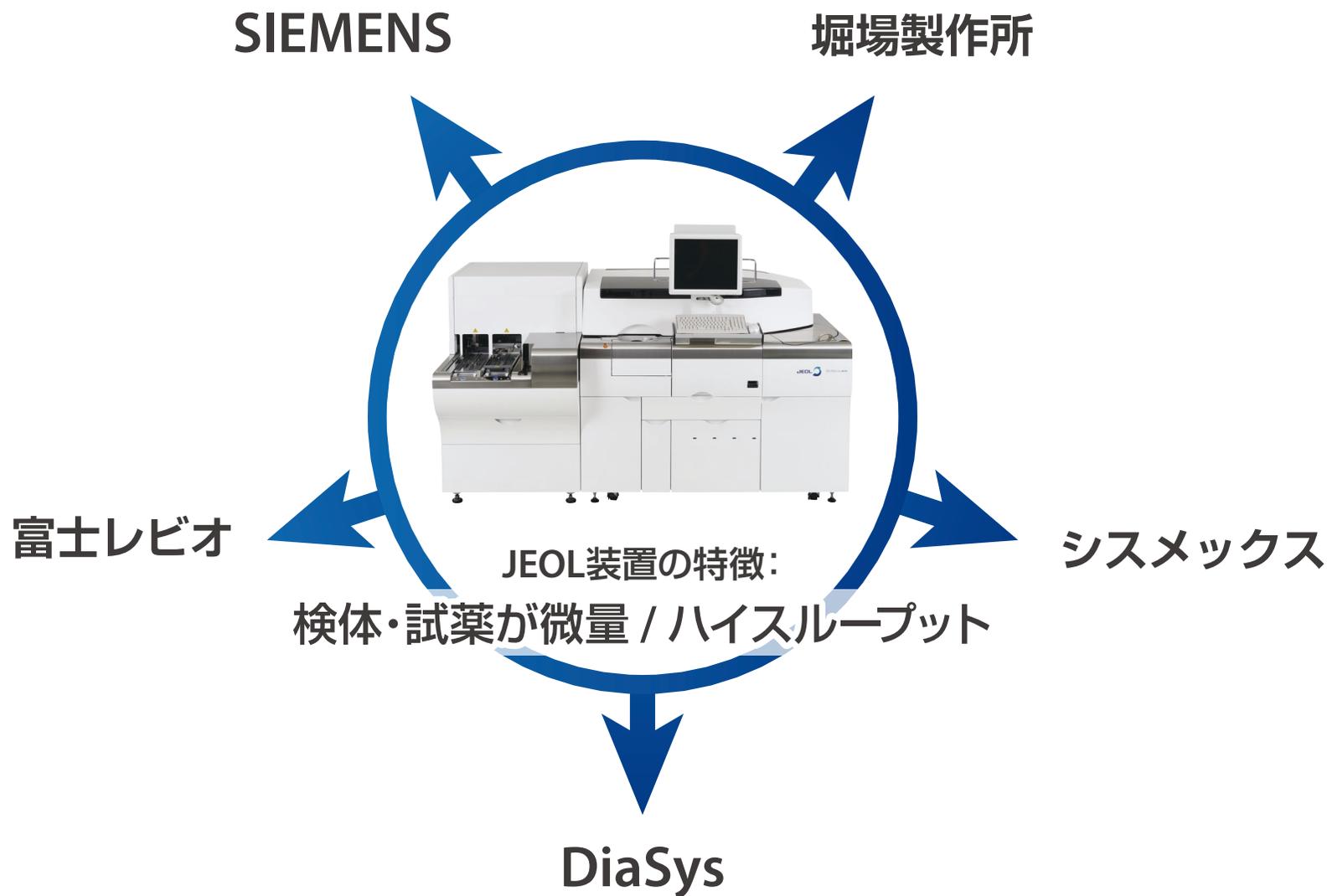
¥ 113

¥ 115

¥ 115

海外市場の開拓

- 新興国を中心とした世界市場へ展開を継続



3. まとめ



世界の科学技術を支えるニッチトップ企業へ

▶ YOKOGUSHI ◀

経営理念

日本電子は「創造と開発」を基本とし常に世界最高の技術に挑戦し製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献します

▶ YOKOGUSHI ◀

ビジョン

「70年目の転進」

創業以来培ってきた独自の技術と人脈を基に事業拡大を加速し更なる高収益化を実現します

中期経営計画

「Evolving Growth Plan」

研究開発力、ものづくり力、サービス力のUPにより顧客満足度の向上を図ります

▶ YOKOGUSHI ◀

共創によるイノベーションを推進

資料取扱上のご注意

本プレゼンテーション資料及び弊社代表者が口頭にて提供する情報には、現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく記述が含まれています。

今後、経済情勢をはじめ半導体市況や研究開発投資など、弊社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が異なったものとなることが否定できないことを、ご承知置き願います。